

今月の論語

これを賞すといえども
竊まざらん

どんなことがあっても、
どんなに欲しくても盗んではいけない。

今月の帰宅放送は、東原岸舎東部校9年の野田祐真さんです



多摩市郷土資料館長 藤井伸幸

○白毫は仏の眉間に生える白い毛で光明を放ちます。
○天衣はショール状の衣です。
○銘の三十八番は、現在の高知県土佐清水市にある金剛福寺です。

銘「三十八番本尊千手観世音当村字前田小川サキ」
〔大正十二年〕

光背と坐像が一体化し、別造りの蓮華台があります。顔が三面あり、それぞれ頭に宝冠を載せ、髪を高く結い上げます。眉間に白毫があり、天衣が両肩から腕に垂下しています。光背の左右に二手ずつが刻まれ、左手に槍と弓を持ち、右手に錫杖と矢を持ち、正面では合掌しています。千手観音は観世音菩薩の变化観音で、六観音の一つです。千の手と千の眼で衆生を救済するとされます。

野の仏ギャラリー ③〇
三面千手観音坐像

北多摩町大字小侍

連載



多摩市郷土資料館 志佐喜栄

東多摩駅前、ベンチに腰掛けた銅像が設置されています。東多摩町別府に生まれ、日本初の電気工博士となった志田林三郎(1856-1892)のモニュメントです。平成30年、明治維新150年を記念して、幕末・明治に活躍した佐賀県出身の偉人26人のモニュメントが制作され、佐賀市の中央大通り沿いに設置されました。林三郎のモニュメントは中央大通りの中ほどにあり、同じものが林三郎の故郷である東多摩駅前にも設置されました。

工部大学校同期生の集合写真から林三郎の身長を175cmと推定し、スコットランドのグラスゴー大学に留学していた頃の写真をもとに座った姿で造られています。手に持つ電信用検流計(タンジエント・ガルバノメーター)は現存しており、国立科学博物館に所蔵されています。

「志田林三郎」



多久の偉人たち

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ がつかりの氣を立て直す 水一杯 西山 残月
- ◆ 大谷を敬遠ばかりグリーン 猪ノ口 昭子
- ◆ 洗面器あふれる水に叱られる 井上 東子
- ◆ 生かされていつまで続く いばら道 百崎 美智子
- ◆ プライバシー猫に知られたゴミ袋 大谷 和

俳句 《互選》

- ◆ 結納の目録届く菊日和 本村 則子
- ◆ 南瓜切る包丁の背に身を乗せる 武富 律子
- ◆ 反り返る城の石垣 虫の秋 中嶋 清子
- ◆ 潮騒をトレモロと聴く 浜の秋 富樫 明美
- ◆ コンバイン 労ふ農の新走 あらはら 則子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ いつの日か 金色堂を拝す旅 夢見しままに 来年 傘寿 浦野 嘉恵
- ◆ やさしさは今はいらない ゆつくりと 眠りたいだけ 介護忘れて 梶原 恵美子
- ◆ 愛される 喜びを知りもう一度 生きてみたいと 再起を誓う 野崎 隆幸
- ◆ 満月は眠り静まる 屋根屋根を 見守ることく 皓々と照る 川浪 信子
- ◆ 読みくるる 同期少なくなりし今 風に吹かれた 文集を編む 尾形 節子

市民文芸